

新美南吉から久米常民氏に宛てた書簡が東浦町で発見されて5年。1月10日、この6通の書簡が新美南吉記念館による寄託調印式が行われ、両市町の教育長に寄託され、南吉の書簡の一部は、半田高校創立100周年記念企画展「南吉の中学生日記」(2月17日)で展示しています。

\* \* \*

大正15年、新美南吉と久米常民氏は旧制半田中学校(現半田高等学校)に入学しました。2人は同じクラスになった4年生の頃から、共に文学を志す仲間として親交を深めました。勉強においてもライバルになり、卒業時の成績は久米氏が首席、南吉は次席でした。久米氏はその後、第八高等学校から東京帝国大学に進み、同郷の久松潜一(ひさまつひそいち)を師と仰いで万葉集を研究。高校や大学の教員を務めました。南吉は中学卒業後、痩せすぎのため体格検査で岡崎師範学校を落とされ、母校の半田第二尋常小学校で5か月間、代用教員を務めました。その後、東京外国語学校へ進学し、

卒業後はしばらく職を転々としましたが、最後は安城高等女学校に落ち着き、教師と作家活動を並行して行いました。寄託式では、「南吉童話お話の会でんでんむし」の方に、昭和6年4月25日の書簡を朗読していただきました。これは中学を卒業した南吉が、受験に失敗し、代用教員をしていた頃にあたります。

久米君

君のお手紙に、たいへん感謝する。／そして、それはうれしさだよ。／(略)

しかし、思えば「話の出来る奴」は君一人だったな。そして君と僕は、「そんな話」以外に何か結びつけるものがあつたな。思えばそうだったな。僕は涙もろくなつている。今君が俺の前に来たら、君をにらんで泣くぞ。泣くぞ。／(略)

八高の制帽制服で来い。来たら、覚えたドイツ語をかたれ。俺は、思いきって、たたきのめされて、泣いて見せるから。／(略)

この書簡を読んで驚いた久米氏は、すぐに南吉の家を訪ねました。ところが会うと南

吉はけろっとしていて、いつもと変わりありません。後に文学を研究する側になった久米氏は、この書簡が南吉の「詩」だと気づいたといいますが。

南吉の死後、久米氏は何度も講演で南吉の話をしました。作家としては南吉に負けたくれども、研究で自分を遺すということでは、まだ南吉とのライバル関係は終わっていない――

2人の関係がよく伝わるこれらの書簡を大切に保管していきたいと思えます。



寄託調印式

## アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

### 回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

### あて先

〒475-8666  
東洋町2-1 企画課  
Eメール  
kouhou@city.handa.lg.jp



女子プロテニスプレイヤー、大坂なおみ選手の活躍、ご覧になりましたか。全米オープンに続き、全豪オープンも優勝。世界ランキングも1位になりました。大坂選手の躍進の理由の1つに挙げられているのは、メンタル面での成長です。全豪オープン決勝でも、くじけてしましそうな場面が何度もありましたが、大坂選手は冷静にプレーしていました。まだ21才の彼女の活躍。私が見習いたいものです。(浅野)

### 編集後記